

二〇二二年五月一日(参加者二名)

ふるさとも母も遠しや桜餅	よし子
堰落つる水音に淀の春惜しむ	満天
陶の里白磁器に盛る桜餅	かかし
離宮跡訪ふて水無瀬の春惜しむ	せいじ
バス待つ間磯のかをりに春惜む	みづき
コロナ禍を憎みて老いの春惜しむ	宏虎
春惜しむ湖畔の道を遠回り	よう子
泰平の世を願ひつつ春惜しむ	たか子
春惜しむ巡拝日和賜りて	董雨
桜餅母エプロンをたて結び	よし子
惜春やをりをり届く遠汽笛	わかば
外出の叶はぬ母と桜餅	うつき
春惜しむ遺愛の蘭に心よせ	うつき
雑草にルーペを合はせ春惜しむ	うつき
助手席に座す家苞の桜餅	素秀

廃寺なる放生池の春惜しむ	明日香
峡の日に抱擁されつ春惜しむ	明日香
桜餅少し濃い目にお薄点て	満天
惜春や伊吹の尾根に座り雲	隆松
仏壇の母に声かけ桜餅	豊実
御朱印帳みせあひ旅の春惜しむ	こすもす
塩漬けの葉もお手製の桜餅	うつき
釉葉の緑に映えし桜餅	たか子
遠峰の移ろふ色に春惜しむ	隆松
いとこ会女ばかりやさくら餅	はく子
我が庭の狭きながらも春惜しむ	もとこ
引越しの決まりし部屋に春惜しむ	なつき
春惜しむ一筆書きのやうな雲	ぼんこ
疎水べり辿りて京の春惜しむ	せいじ

WEB句会みのる選・二〇二二年五月一日